

12月3日、初冬の穏やかに晴れた午後、修学院のアトリエで第2回ロシアンメソッドピアノ研究会に参加させて頂きました。いくつもの魅惑的な彫刻、鳴らされるのを静かに待つピアノなど、「美しい音」を求める気持ちに自然と導かれる素晴らしい空間です。いつも受講生一人ずつの座り方、ひとつの音の響かせ方、手や指のフォームの確認から研究会は始まります。たった一つの音ですが、力の抜けた良いフォームで柔らかく響かせるのは細やかな神経を使うものです。この日は、松田先生のテキスト「ピアノレッスン 1-a」を皆で弾き進め、お互いに伴奏しあって更に脱力や体の使い方を学びました。戸惑う時は、先生が私たちの腕や手をとって支え、ほぐしてくださるのですが、その後弾かれる音はあきらかに変わります。単音を弾く場合でも残りの指すべてに神経がいきわたっており、まさに指先まで生きている、脳の指示が届いているという感触はとても新鮮でした。実際に体に触れ合って実感できるので後になっても思い出しやすいです。先生はよく「手の息」とおっしゃいます。自分の手が音やリズムを繋げる時、自然に手の息ができていたら、その時本当に自分とピアノは親密になれることと思います。幼い子ども達に根気よく楽しく「美しい音」を伝えるのは大変にも思われますが、松田先生は「言ってあげたら心に残る」というような事もおっしゃいました。言葉、体、耳など五感をよく使って自分自身もこのことを心がけたいと思います。今後、いろいろな作曲家の作品も使われるとか、それも大変楽しみにしています。和やかで丁寧な研究会に参加させて頂けることをありがたく感謝しております。

レポート by 松村佳奈